

前田利家と金沢城

●前田利家は加賀百万石前田家の祖です。尾張荒子(現名古屋市中川区荒子町)の土豪前田利昌の四男として生まれ、織田信長に従い、大名としての基を築きました。幼名犬千代、前名又左衛門。武勇の誉れ高く「槍の又左」の異名があります。●豊臣秀吉とは犬千代時代からの交わりです。信長時代には、近江長浜、越前府中、能登七尾の城主となりましたが、秀吉と柴田勝家の戦いの後、秀吉と提携し、天正11年(1583)金沢城に入城しました。●金沢城は、寛永8年(1631)の火災以降、本丸の機能が次第に二の丸へと移されました。菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓の形体もこのころに整備されたと考えられています。17世紀の終わりころには、二の丸は「千畳敷の御殿」と呼ばれるほど壮麗な建物となっていました。そして、宝暦9年(1759)の火災を機に、完全に本丸から二の丸中心の城へと変化したのです。二の丸の建物は宝暦9年(1759)、文化5年(1808)の二回大きな火災を受け、そのつど再建され、明治期まで存続しました。

金沢城菱櫓等復元要旨

●菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓は資料に基づき史実を尊重し、文化6年(1809)に再建された形に復元し、日本古来の伝統工法により建設しました。構造は柱と梁・桁による木造軸組と土壁・貫を組み合わせた耐力壁によって構成し、部材の接点は継手や仕口を用いて緊結を図っています。明治以降の木造城郭建築物としては全国的にも大規模なもので、建物の耐用年数は200~250年を想定しています。また、現代工法として、鉄筋コンクリートの基礎やスプリンクラー設備等を設置し、さらにバリアフリーを考慮した階段昇降機、エレベーターを設けています。

金沢城建築関係略年表

| | |
|-------------|-------------------------------------|
| 1546 (天文15) | 金沢御堂(尾山御坊)小立野台地に創建。 |
| 1583 (天正11) | 前田利家、石川・河北両郡を豊臣秀吉より拝領し、金沢城入城。 |
| 1592 (文禄1) | 文禄の役。金沢城大修築。百間堀(蓮池堀)、いもり堀、白鳥堀等堀る。 |
| 1602 (慶長7) | 金沢城火災、本丸御殿焼失。 |
| 1620 (元和6) | 金沢城下大火、城内ほぼ全域焼失。 |
| 1621 (元和7) | 本丸御殿再建。(四月) |
| 1631 (寛永8) | 金沢城下大火、城内本丸御殿類焼。橋爪門創建。 |
| 1632 (寛永9) | 二の丸御殿造営。辰巳用水ができる。 |
| 1642 (寛永19) | 金沢城北の丸に東照宮造営。 |
| 1759 (宝暦9) | 金沢城下大火、本丸三十間長屋上棟式。 |
| 1762 (宝暦12) | 二の丸御殿・橋爪門成る。石川門普請開始。 |
| 1788 (天明8) | 石川門成る。 |
| 1808 (文化5) | 二の丸御殿より出火。菱櫓等焼失。 |
| 1809 (文化6) | 二の丸御殿上棟式。橋爪門造営成る。五十間長屋完成。菱櫓・楽屋多門造営。 |
| 1810 (文化7) | 二の丸御殿成る。 |
| 1822 (文政5) | 松平定信、兼六園の額を書す。竹沢御殿成る。 |
| 1837 (天保8) | 竹沢御殿庭に泉水成る。霞ヶ池を掘る。 |
| 1858 (安政5) | 金沢大地震。本丸三十間長屋上棟式。 |
| 1881 (明治14) | 二の丸御殿・橋爪門、五十間長屋等焼失。 |
| 2001 (平成13) | 菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓復元。 |
| 2010 (平成22) | 河北門、いもり堀復元。 |
| 2015 (平成27) | 橋爪門、玉泉院丸庭園復元整備。 |
| 2020 (令和2) | 鼠多門復元、鼠多門橋完成。 |



石川県金沢市・兼六園管理事務所 〒920-0937 金沢市丸の内1番1号
TEL. 076-234-3800 FAX. 076-234-5292
<http://www.pref.shikawa.jp/siro-niwa/>

お問い合わせ



●交通のご案内
 ※団体は30人以上
 ●入館料 / 大人(18歳以上) 320円(団体250円)
 ●休館日 / 年中無休
 ●開館時間 / AM9:00~PM4:30(最終入館PM4:00)

入館のご案内



金沢城公園

菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓・橋爪門





菱櫓

二の丸で一番高い三層の物見櫓。尾坂門、河北門、石川門を一望できる。石落しを多く持ち、実戦的で、なおかつ華やかな櫓。

橋爪門続櫓

二の丸大手の橋爪門枳形に付随する三層の物見櫓。三の丸で戦闘が起きたときの指揮所。



五十間長屋

菱櫓と橋爪門続櫓を結ぶ二層の多間櫓。普段は倉庫として用いられるが、非常時は戦闘のための砦となる。石落しを各所に備え、格子窓は鉄砲狭間となる。

鶴の丸土塀

土塀の三の丸側の腰部は海鼠壁で覆われている。鉄砲狭間は隠し狭間で、通常は海鼠壁の板瓦でふさがれている。塀の内部には小石が詰められている。



橋爪門一の門



橋爪門二の門

橋爪門

高麗門形式の「一の門」、石垣と二重塀で囲まれた「枳形」、櫓門形式の「二の門」からなる枳形門で、枳形は城内最大の規模を誇る。二の丸の正門として、最も格式の高い門であった。

展示物リスト

- ① 壁断面展示(透視展示)
- ② 城内の発掘調査(出土品展示)
- ③ 石落し
- ④ 金沢城再現模型(1/500)
- ⑤ 海鼠壁断面模型
- ⑥ 屋根軒先部分模型
- ⑦ 木組模型(土台・柱部継手)
- ⑧ CGモニター
- ⑨ 菱櫓等軸組み模型(1/10)
- ⑩ 菱櫓柱脚部展示(透視展示)
- ⑪ 木組模型(菱櫓)

赤字:1階 青字:2階



◀ 伝統木造工法

日本に古くから伝わる木造軸組みの工法。柱・梁を組み合わせ、小屋を架ける。柱は松、角梁は米ヒバ、小屋梁には松丸太を用い、他に能登ヒバ、赤杉など県産材を用いている。使用した木材6,190石の約7割の4,221石が県産材。



▲ 出窓

石垣をよじ登る敵を防ぐために設けられた。出窓床板を開き石を落す。三面の窓は鉄砲狭間となる。

復元整備の概要(建築物)

| 区分 | 菱櫓 | 五十間長屋 | 橋爪門続櫓 | 橋爪門 | 鶴の丸土塀 |
|----|---|---|---|---|--|
| 規模 | 木造三層三階建 入母屋造り 唐破風石落し付 鉛瓦葺 海鼠壁及び 総漆喰塗込壁 屋根高(石垣上) H=17.34m 延べ床面積 A=255.35㎡ | 木造二層二階建 入母屋造り 唐破風石落し付 鉛瓦葺 海鼠壁及び 総漆喰塗込壁 屋根高(石垣上) H=9.35~10.08m 延べ床面積 A=1384.95㎡ | 木造三層三階建 入母屋造り (一部寄棟造り) 唐破風石落し付 鉛瓦葺 海鼠壁及び 総漆喰塗込壁 屋根高(石垣上) H=14.69m 延べ床面積 A=253.93㎡ | 【一の門】 高麗門(脇塀付) 鉛瓦葺 屋根高(石垣上) H=7.03m 門幅 W=4.62m 【二の門】 櫓門 入母屋造り 屋根高 H=12.78m 門幅 W=14.36m 【枳形二重塀】 切妻造り 矩折延長 46.96m (出し含む枳形内側) 延べ床面積 A=136.18㎡(41坪) | 土塀(二重塀) 木芯土塀控柱付 唐破風石落し・ 鉄砲狭間付 鉛瓦葺 屋根高(石垣上) H=2.91m 延長 L=62.12m |
| | 延べ床面積 A=1,894.23㎡(573坪) | | | | |



▲ 床下軸組および壁の透視展示

菱櫓一階の床下部分と二の丸側壁面部分にガラスを入れ、内部に隠れた部分の様子が分かるよう工夫されている。